



モイク・カムイ 124

NO.

○モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。

April 2025

ASAHIYAMAZON NEWS

あさひやまどうぶつえんニュース

マガモ (メス)

Anas platyrhynchos

もくじ

ぼくは動物大使 その85
みんなの身近な渡り鳥 マガモ1.2

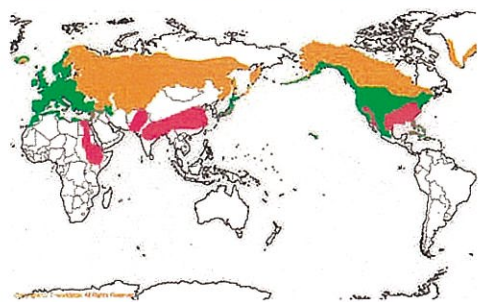
特集 園内でバードウォッチング
～初夏に観察できる野鳥たち～3.4

飼育研究レポート5
ダチョウにグリッドは必要か

動物園のお医者さんのカルテ6
～アムールヒヨウの赤ちゃんの骨折治療～

主なできごと・編集後記・飼育動物数7

マガモの分布

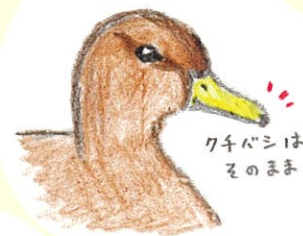


オレンジ色部分：繁殖地
ピンク色部分：越冬地
緑色部分：周年見られる場所

ぼくは動物大使 その85

大きさ 全長 50cm~60cm
翼開長 81cm~95cm
体重 700g~1.6kg
カモの中では大きい!

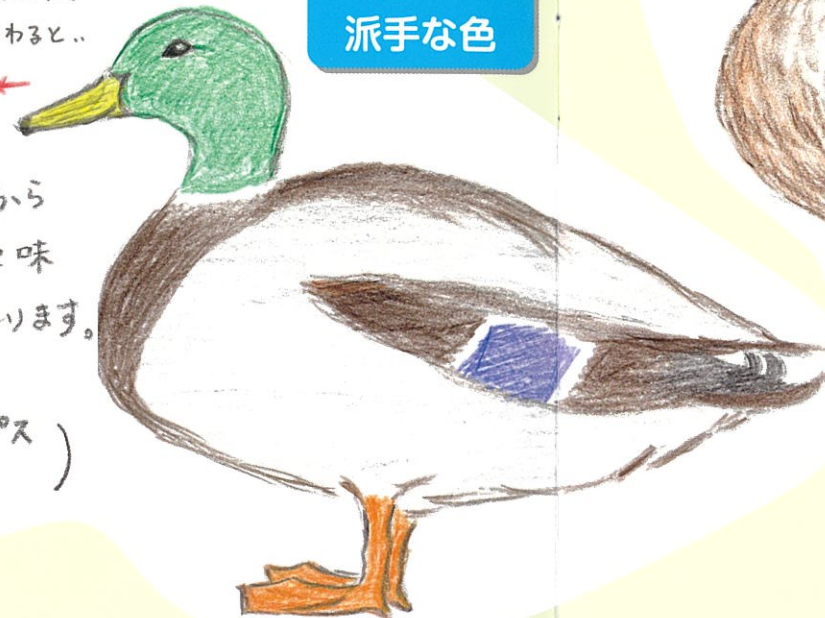
メスにそっくり



繁殖期が
終わると...

ワキバシは
そのまゝ

オス
派手な色



天敵に見つか
ないように土味
な羽の色になります。

↑
(これをエクリプス)
といいます。

メス
地味な色



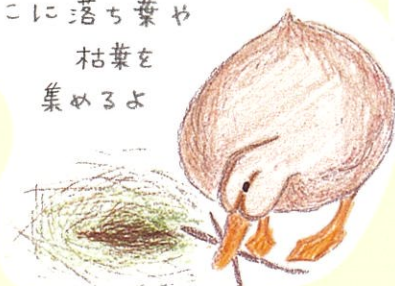
鳥たちが安心して
渡りをつづけて
卵を産み育てられる
ような環境を
守りつづけてい
てほしい。

1

低木や草むらなど
目立たない場所に
少しくぼみを
つくって...

2

そこに落ち葉や
枯葉を
集めるよ



さいごに
自分の綿羽
も抜いて
かぶせま



3



カモは卵を1日1個ずつ産むよ。でも母カモはすぐ
には温めず、全部の卵を産み終わってから温め
始めるよ。これを「ワンクラッチ」という!

4

ヘビも食べものさがしに
一生けんめい



卵のうち独り立ちできるのは
5%程度にすぎない。

5



のんびり泳ぐカモたちも、
たくさんの危険をかいくぐって
成長した強者たちなのかも。

6



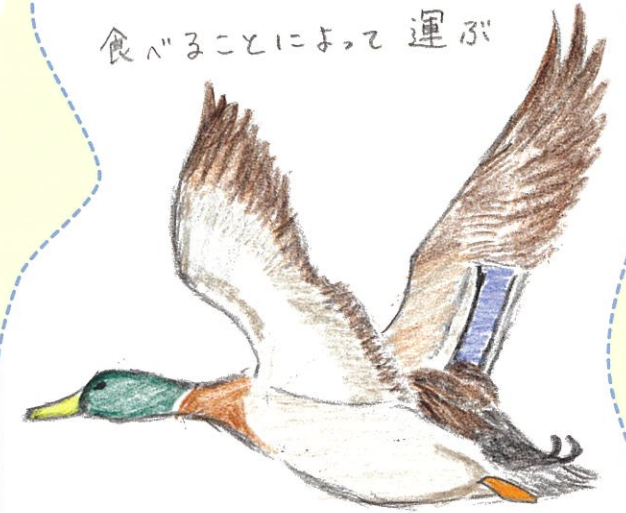
ヒナたちは卵からかえると
すぐに自分で泳いだり
食べたりできるよ。

みんなの身近な渡り鳥 マガモ

渡り鳥って?

季節によってすみ場所を
変える鳥。夏は涼しいところ
で子育てをして 寒くなると
暖かい場所へ飛んで行きます。
春や秋に空を見上げると
たくさんの鳥が飛んでいることが
ありますよね。

食べるによって 運ぶ



おなかの中には植物の種や
いろいろな生き物の卵



うんちとして落としたり 他の重カ物に食べられたり
すること

地域の生物多様性に
貢献したり、生態系の一部
となるよ。

鳥たちはこの「渡り」を
もう何百年も前から
続けているんだね。

園内でバードウォッチング

～初夏に観察できる野鳥たち～

鳥ごよみ



いきもの
目撃マップ
2024年
4月～6月

今回は、いつも使っている「いきもの目撃マップ」のエリアを4つに分けて、どのエリアで目撃されたか、どのエリアで鳴き声を聞いたかを紹介しします。ちなみに、目撃したいいきものを、まとめている記入帳には「慰霊碑そば」や、「野外ステージ」「ペンギン裏」というようにピンポイントの場所が書かれています。取り調べノートならぬ「鳥調べノート」です。

園内中央のサポートセンターに掲示している「いきもの目撃マップ」や「鳥ごよみ」。「いきもの目撃マップ」では、いつ、園内のどこで何を目撃したか、「鳥ごよみ」では、一年を通じてどんな野鳥が観察できたかを月別に記し、随時更新しています。この特集では2024年のデータをもとに4月下旬～6月下旬までに観察できる野鳥をまとめてみました。今年はどんな野鳥が観察できるかな。

※昨年観察できたからといって今年も観察できるわけではありません

旭山動物園 いきもの目撃マップ

エリア
A

東門から「くもざる・かぴばら館」「サル舎」「てながざる館」「動物図書館」を囲ったエリア。丈が低めの植物が多いが、実のなる木や花も多く、高い木もところどころにはえている。園内では一番標高が高いエリアでもある。

エリア
B

「こども牧場」から「きりん舎」「あざらし館」から「さる山」をぐるっと囲んだエリア。芝生の広場やシラカバ林やマツやヒバなど、広葉樹と針葉樹がほどよくあるほか、動物慰霊碑のそばには池や野草園もある。

エリア
C

「ペンギン館」「もうじゅう館」から「シマフクロウ舎」「おらんうーたん館」「両生類・は虫類舎」「レッサーパンダ舎」を囲んだエリア。高い木が密生する場所が多い。「エゾシカの森」からは三浦庭園の池を臨むことができる。

エリア
D

正門から「フラミンゴ舎」「ととりの村」、サポートセンターから西門をぐるっと囲んだエリア。人が集まる建物が並び、店と店の間には針葉樹、「ととりの村」内にも多くの植物があり、裏には旭山公園がある。

野生動物
目撃記入帳

日時、種名、場所、数
など各備考欄が
あります



「野生動物目撃記入帳を元に
目撃マップを記入しています

園内上空を飛ぶ野鳥や、鳴き声も、
できるだけ観察しています



多く観察
できた種 **カワラヒワ**

カワラヒワがさえざり始めると春を感じるほどメジャーな野鳥で夏鳥。園内には3月下旬に飛来。数も多く巣作りする様子も観察された。

2024年4月21日～6月30日に
園内で観察できた野鳥の種数は

※スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラスを除く

夏鳥…春に日本より南の地域から渡ってきて日本で繁殖し、
秋には南の地域に戻って冬を越す鳥

27
種

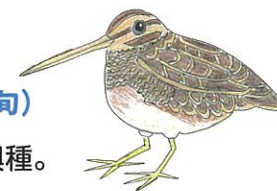


多く観察できた種
ツツドリ
(夏鳥)

エリア
A
17種

ツツドリ、エゾアカゲラ、エゾオオアカゲラ、コゲラ、カワラヒワ、亜種シマエナガ、ウグイス、亜種シロハラゴジュウカラ、シジュウカラ、ハシブトガラ、ヤマガラ、ニュウナイスズメ、キビタキ、ヒヨドリ、センダイムシクイ、キジバト、ヤブサメ、オオジシギ

1回だけ
観察した **オオジシギ**(4月下旬)
夜、東門そばで目撃。夏鳥で準絶滅危惧種。



多く観察できた種
キジバト(夏鳥)

エリア
B
19種

ツツドリ、エゾアカゲラ、コゲラ、ヤマゲラ、イスカ、カワラヒワ、亜種シマエナガ、ウグイス、ミヤマカケス、亜種シロハラゴジュウカラ、シジュウカラ、ハシブトガラ、ヤマガラ、ニュウナイスズメ、コムドリ、キビタキ、ヒヨドリ、センダイムシクイ、キジバト

1回だけ観察した **イスカ**(4月下旬)
松かさの種を交差したクチバシで食べる。留鳥。

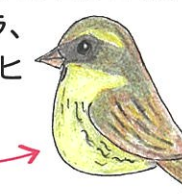


多く観察できた種
キビタキ(夏鳥)

エリア
C
18種

ツツドリ、エゾアカゲラ、エゾオオアカゲラ、コゲラ、ヤマゲラ、カワラヒワ、ウグイス、亜種シロハラゴジュウカラ、シジュウカラ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、ニュウナイスズメ、キビタキ、ヒヨドリ、アオジ、キジバト、ヤブサメ

1回だけ観察した **アオジ**(5月中旬) →
2023年は9月まで観察できたが2024年は1回のみ。夏鳥。



多く観察できた種
ヒヨドリ(留鳥)
留鳥…ある地域で一年
中見られる鳥

エリア
D
10種

ツツドリ、コゲラ、ヤマゲラ、カワラヒワ、亜種シロハラゴジュウカラ、シジュウカラ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、ヒヨドリ

考察 (2024年4月下旬
～6月下旬)

昨シーズンは一年を通して48種の野鳥を観察することができました。そのうち4月下旬～6月下旬には半分以上の27種。多く観察できた種のほとんどが夏鳥で鳴き声に特徴がある種が多く観察できました。昨年は、その前の年に観察できた夏鳥のホオジロやメジロ、カッコウが観察されず、一年中観察できた留鳥の亜種シロハラゴジュウカラやミヤマカケスの目撃が極端に少ない年でした。キビタキは昨年5月上旬から観察できました。そろそろ園内で観察できるかもしれませんね。

いろんな夏鳥



昨年は4月下旬から観察
できた

ニュウナイスズメ



昨年は5月上旬から観察
できた

アオサギ



昨年は4月中旬から観察
できた

ヤブサメ



昨年は観察
できなかった。一昨年は
4月下旬から観察

ホオジロ

いろんな留鳥



ヒガラ



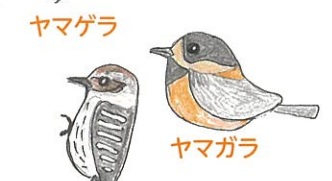
亜種
エゾアカゲラ

ハシブトガラ



ヤマガラ

シジュウカラ



ヤマガラ

ヤマガラ

亜種エゾコゲラ
「ゲラ」と付くキツツキの仲間
や「ガラ」と付くカラ類は
留鳥です。



飼育研究レポート

～ダチョウにグリッドは必要か～



はじめに

鳥の間は歯がなく、食べ物はほぼ丸のみして胃で消化されます。特に穀物など硬いものを食べる鳥では、胃の中に砂や小石(グリッド)をためて食べ物をすりつぶし消化を助けています。

動物園のダチョウが石を食べる様子はこれまでも確認されていましたが、放飼場には小石がほとんどありませんでした。ダチョウは草などの植物を主食としており、草食動物並みの消化能力を持つといわれています。動物園では牧草、もやし、ダチョウ用フード、アルファルファペレットなどの配合飼料を与えています。

今回は、牧草の給与量を増やしておなかの働きをさらに良くしたいと考え、定期的に小石をあたえつつ、摂餌量の変化なども調べてみました。参考までに、ダチョウの胃には通常約1.5キロの小石が存在するといわれています。

調査方法

今回の報告対象期間は小石の給与を開始した2020年10月を基準にその前後約一年間としました。対象個体は2羽(オスとメス)です。

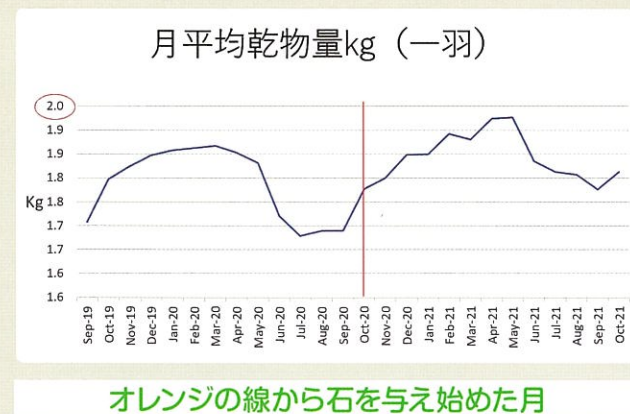
毎日、与えた餌の全量と残した餌の量を記録しました。(残したエサの種類までは計測していませんが、主に残すのは牧草だったため、牧草の摂餌量はこの記録からおおよそ把握できます。)このデータをもとに、月ごとの平均摂餌量を算出し、グラフ化しました。小石は月に1～2回、1～2キロを与えました。

結果

一般的に、ダチョウの摂餌量は乾物量(全体量から水分量を引いた値)で体重の約2%とされており、また、体重が大きく変化しないようにエネルギー値を調整して給与量を決めているため、大きな数値の変化はないだろうと予想していました。

しかし2羽に与えた餌全体量のグラフを見ると、

わずかに摂餌量が増加している傾向が見られました。一羽当たりの月平均栄養価(鶏の消化率で算出)や、乾物量を比べても同じ結果が得られました。一方で、体重の大きな変化は見られず、体重の維持がうまくいったと考えられます。



おわりに

複数の文献によると、小石を摂取できないと、草などの植物質の餌をうまく消化できなくなることがあり、逆に砂を過剰に摂取してしまうリスクもあるといえます。胃の中で石は徐々に小さくなって排泄されるため、定期的に、あるいは常時、小石を摂取できるようにするとよいそうです。夏は少し摂餌量が減る傾向がみられるなど、食欲の変動にはさまざまな要因が関係しています。今後も小石の給与は継続しながら、個体の様子もよく観察し、健康的な飼育をこころがけていきたいと思います。

おまけ

旭山のダチョウは小石の大きさにも好みがあるようです。さまざまな大きさを与えてみたところ2センチ以下の石を好んで選んでいる様子が見られました。クチバシで大きさを確かめながら選んで食べています。



(ペンギん館担当:田中千春)

動物園のお医者さんのカルテ

～アムールヒョウの赤ちゃんの骨折治療～

今回はアムールヒョウの赤ちゃんの骨折治療についてのお話になります。

2024年8月25日に生まれたアムールヒョウのみらいの雌の赤ちゃん一頭(父親:デン)は、はじめてにもかかわらず子育て上手な母親のみらいのおかげで順調に生育していました。ワクチン接種も無事に終わり、11月7日の閉園期間中から屋外への馴致がはじまりました。

室内での生活時から活発だった赤ちゃんは、久しぶりの屋外を楽しむ母親のみらいについていき、すぐに屋外を探索してまわっていました。

冒険心の強い性格が災いしてか、屋外の擬岩の高いところに登っては降りられなくなり、見ているひとをはらはらさせていました。

11月15日、飼育担当者が、右後肢の跛行(引きずって歩く様子)に気づきました。当初担当者も獣医師も、高いところから降りたせいで少しひねった程度と考えており、翌16日に念のためと、レントゲン撮影をしたところ、大腿骨の骨折を発見しました。高所からの飛び降りが原因と考えられました。



骨折レントゲン写真

診断時のレントゲン写真、大腿骨が斜めに折れています。

人間であれば、ギプス固定が一般的な治療法になりますが、するどい牙で壊してしまう動物では使用できません。大学など外部の獣医師とも相談した結果、骨折した骨に金属のピン(細長い棒状のもの)を入れた上で、骨折部位にワイヤーを巻くことで固定する方法を選択しました。

11月18日に手術を行い、犬猫にくらべてたくましい筋肉の影響で深い骨折部位に苦勞しつつも、約2時間ほど(麻酔合計としては3時間)で手術は無事に終わりました。



手術前の写真

手術のために毛を刈って消毒した様子。皮膚にもヒョウ柄があります。



術後レントゲン写真

骨の中のピンと2つのワイヤーで骨折部分がずれないように固定しました。

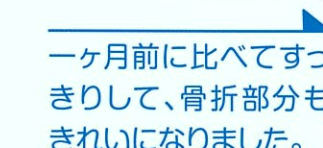
術後2週間くらいから骨の癒合(骨折した骨どうしがくっつく)が確認され、約二ヶ月後の2025年1月17日のレントゲン撮影し完治としました。

ちなみに術後2ヶ月の成長もありピンは今後も骨に入ったままになりますが、特に問題はありません。



12月24日

治療過程で骨が反応して一時的に太くなっていますが、順調です。



一ヶ月前に比べてすっきりして、骨折部分もきれいになりました。

1月17日

1月20日には屋外再デビューとなり、右後肢も使って、初めての雪の展示場を歩き回っていました。

しかし、まだ筋力の弱い右後肢をどうしても地面に擦ってしまうようで、足先の肉球が傷になってしまいました。屋内外に乾草をしくなどして対処した結果、傷の悪化は止まりましたが治りが遅いため、2月中旬から再度屋内暮らしになっています。その後傷は徐々に治ってきており、夏期開園からの屋外再デビューを予定しています。

皆さんにはご心配をおかけしましたが、今後もアムールヒョウの赤ちゃん(といっても大分大きくなってしまいました)の成長を見守って下さい。

(獣医師 中村)

主なできごと

2024年

12月11日 ペンギンの散歩開始

12月26日 エゾモモンガ「やなぎ」円山動物園へ搬出
モルモット 円山動物園より搬入

2025年

1月20日 旭山動物園くらぶ主催・もちつき大会

2月8日～10日 雪あかりの動物園



雪あかりの動物園



3月20日 第25回動物読書感想文コンクール表彰式



コンクール表彰式

3月24日 ペンギンの散歩終了

アザラシ「ましろ」出産(仔は誕生後に死亡)



ゴマフアザラシの「ましろ」

3月31日 フンボルトペンギンNo. 5死亡
(呼吸器不全)

4月7日 冬期開園終了

編集後記

2024年度は田村園長に代わって最初の年となりました。飼育スタッフも若手が増えたな～と思うのは私が年を取っただけでしょうか。若手スタッフ達の熱意や取り組みを、日々頼もしく見ています。

4月8日からは閉園となり、飼育スタッフは2025年度の夏期開園に向けて手作りで担当動物の展示の工

夫をしたり、手書き看板を書いたりします。このモユクカムイがみなさんの元に届く頃、園内ではスタッフたちの努力の結果をご覧いただけることでしょう。

田村園長の元、若いスタッフ達の熱意と新しい感性で進んでいく旭山動物園を、2025年もどうぞよろしくお願いいたします！
(大西)

最新情報は
ここでチェック!!



公式HP



Facebook



X
(旧Twitter)



Instagram



モユク・カムイ No.124 令和7年4月26日

●発行所／旭川市旭山動物園

〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104

●発行人／田村 哲也

●表紙絵／原田 佳

●編集／中田 真一・中村 亮平・佐賀 真一・大西 敏文・鈴木 達也
原田 佳・上江 昌弘

●印刷／(株)須田製版：〒063-8603 札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8 ☎011-621-1000



飼育動物数

令和7年3月末現在

●哺乳類 41種・318点

●鳥類 47種・271点

●は虫類 9種・27点

●両生類 3種・25点

●合計 100種・641点